

科目名	生体機能代行装置学実習Ⅲ（代謝）					授業の種類	実習	必修・選択		必修
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	配当学年時期	2年	前期
【授業の目的・ねらい】 血液浄化療法に用いられる機器だけでなく、医療現場に必要な知識・技術を、実習を通して身につけることを目的とする。										
【実務者経験】 臨床工学技士として舞鶴共済病院や神戸大学医学部附属病院等で、慢性維持透析業務や人工心肺・急性期の血液浄化・救急医療等の業務に従事経験。										
【授業全体の内容の概要】 医療現場に必要な知識や技術を身につけることを目的として実習を行う。毎回の授業で学んだことについて、実習内容をレポートにまとめ、理解を深める。										
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 □										
①血液浄化療法の基礎的な知識・技術を身につける。 ②トラブル時などに対応できる応用力・考え方を身につける。										
回数	講義内容								準備物(教材)	
1	落差プライミング（ドライ・ウェット）									
2	ポンプを使用したプライミング（ドライ・ウェット）									
3	感染対策について									
4	透析条件の設定について									
5	透析液・透析液の補正について									
6	機器の構造									
7	機器の保守点検について									
8	水質管理方法について									
9	シャント穿刺について									
10	アクシデントについて									
11	トラブルシューティング：患者									
12	トラブルシューティング：機器									
13	ケーススタディ									
14	ケーススタディ									
15	ケーススタディ発表									
定期筆記試験										
【使用教科書・教材・参考書】 ・臨床工学講座 血液浄化療法装置 第2版、日本臨床工学技士教育施設協議会、医歯薬出版株式会社										
【準備学習・時間外学習】 ・事前に実習内容に関わる機器の特性と使用場面を予習して授業に臨むこと ・講義後は実習内容の復習を十分に行い、報告書を作成すること										
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する 小テストを30点、課題の評価を30点、定期試験を40点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する										